

# ひまわり 1組(知的障がい学級)・2組(自閉症・情緒障がい学級)生活単元学習指導案

日 時	平成29年9月28日(木)	5校時
児 童	ひまわり1組 6年女1名 4年男1名・女1名 1年男1名	計4名
	ひまわり2組 6年男1名 5年女1名 2年男1名	計3名
指導者	教諭 徳江 ひとみ ・ 教諭 多田 浩 ・ 支援員 村上 岬	

## 1 単元名 ニコニコ買い物作戦パート2

## 2 単元について

### (1) 児童について

ひまわり1組は知的障がい学級で4名、ひまわり2組は自閉症・情緒障がい学級で3名在籍している。今年度は、1組と2組で一緒に学ぶ場を多くすることを意識して合同学習を行っている。例えば、1時間目の1組で行う日常生活の指導に2組の児童を交えながら一緒に歌や体操を行い、児童一人一人が各自ニュースを発表し合う活動をしている。また、国語では、導入時にしりとりや言葉遊びを一緒に行い、みんなで学習することの喜びと楽しさを味わわせるとともに、学習規律の確立を図っている。休み時間には、児童はお互いの教室を行き来するなど、ルールを守りながら仲よく活発に遊んでいる。

学習においては、国語と算数で1組と2組の実態に応じグループ分けを工夫しながら、個の課題に応じた指導を行っている。また、生活単元学習では、合同で活動する単元を計画的に取り入れているが、単元や内容によっては一部分を学習する児童もいる。合同学習は難しいところもあるが、教師は担任する児童を中心に指導にあたっている。ただし、状況に応じて担任以外の児童の学習を指導することもある。合同学習を通し、児童はそれぞれ自分の学習の仕方に慣れるとともに、教師の励ましや児童同士の交流によりよい刺激を受けながら、自分の学習内容に集中して取り組むことが多くなってきた。

家庭生活では、それぞれ経験の差はあるものの、家族と一緒に買い物に行くことは何度か体験しているが、一人で必要なものを選んだり代金を支払ったりするという経験はほとんどない。そのため、お金の価値等の理解が十分とはいえない。また、知らない人と関わったり、言葉でコミュニケーションをとったりすることを苦手としている児童もいる。実際の生活に生かすことのできる力を実態に応じて体験的に学び、積み重ねていくことが必要と言える。そこで、生活単元学習の一環として、6月に福田パンへ、10月にマックスバリュへの買い物体験学習を計画し、それぞれの学習課題に向かって児童が興味をもちながら喜んで学習に取り組める活動を設定した。

### (2) 教材について

本単元では、マックスバリュに行って買い物体験をし、体験したことをまとめる学習である。

今まで、児童は「ニコニコ買い物作戦パート1」で買い物の手順や金銭の取り扱いを学習し、「ふれあいさんさ市」と「福田パン」で買い物体験をした。買い物体験の前に、物の買い方を知ること、決まった額の買い物をすること、お店の方と必要に応じて会話をし目的に合った買い物をすることを学習した。これらの学習を通し、児童は、お金は物を買う際に必ず支払うものであること、硬貨や紙幣の種類を知ること、種類ごとに分類したり数えたりすること、釣銭を大事に保管することなどが大切であることを学んできた。

本単元の「ニコニコ買い物作戦パート2」では、その体験をさらに発展させ、実際にマックスバリュに行き、家族から頼まれた食品や日用雑貨等をできるだけ自分たちの力で商品を選び、レジに持っていき金銭を支払い購入する。そのため、家族に購入する物を聞く、聞いたことを見学のしおりにメモする等の活動を通して、国語で重視されている「聞く・書く力」が身に付いていくと考えられる。また、実際にマックスバリュで買い物体験をすることにより、店内での歩き方や商品の扱い等のマナーや店員の方と挨拶や必要な会話等コミュニケーションの向上にもつながってくる。

これらのことから、この学習は、買い物への意欲を高め、経験を深めることができるうえ、個々の課題に合った知識や技能の習得につながる学習活動が含まれており、将来の生活の質をも豊かにするものであると考える。

本教材は、数的基礎概念、金種の弁別、各金種間の等価関係、合計やおつりを求める四則計算など、児童がこれまで学習してきた算数の内容とも関連してくる。一度身に付いたと思われることで時間も経過すると忘れてたりできなかつたりするため、繰り返し学習をしていく必要がある。

### (3) 指導にあたって

これまでの生活単元学習では、「行事の感想を書こう」「運動会のマスコットを作ろう」「大きくなあれ おいしくなあれ」「ニコニコ買い物作戦パート1」を行い、児童は教師の支援を受けながら集中して学習に取り組んできた。また、周りの児童と交流をもつことにより、楽しみながら協力して学習をしてきた。

今回の学習を進めるにあたっては、1学期に行った「ニコニコ買い物作戦パート1」を想起させる。始めに、写真を使いながら福田パンで買い物体験を通し学習したことを確かめる。次に、今回マックスバリュで買い物体験をするにあたり、前年度にマックスバリュでの買い物体験を写真を使いながら想起させる。そこで、たくさんの商品を取り扱っていること、売り場が広いため購入する商品をなかなか見付けられないこと、他のお客様がたくさんいることや店内でのマナーの大切さ等に気付かせる。また、一度学習した金銭の取り扱いについても再度学習をする。特に正確にお金を出すことや、釣銭を確実に受け取ることを大切していく。児童の実態が異なるためプリントや位取り表を用意し、課題を解決できるようにしていく。最後に、事前にお店の方との会話を練習や模擬マックスバリュでの買い物体験を通し、買い物をするときの約束や店内でのマナーを確認していく。これらの学習を通して、児童が自信をもって買い物体験に取り組めるようにしていきたい。

単元を通して、児童一人一人が買い物体験を画用紙に写真や絵を使い文にまとめることにより、体験したことをより深めて次につなげようとしたり、体験したことを自分以外の人にわかるように伝えたいと思いをもち活動したりする姿を育てたい。そして、できたものを互いに見せ合い、友達の活動のよさや頑張りを認め合うことにより、自信をもちこれからの学習にも意欲をもって取り組めるようにしていきたい。

## 3 単元目標

- 金銭の取扱いに慣れて、買い物の仕方を理解する。(知識・理解)
- お店の方と挨拶を交わしたり、わからないことを尋ねたりなど、関わりをもって買い物をすることができる。(技能)
- 買い物をしたことをそれぞれ画用紙にまとめ、友達と交流をする。(思考・判断・表現)
- 買い物に行くことを楽しみにして計画を立てるとともに、購入する商品をかごに入れ、代金を支払う活動を楽しむことができる。(関心・意欲・態度)

4 学習計画 9時間

- 第1時 ニコニコ買い物作戦パート2を頑張ろう。(オリエンテーション)
- 第2～4時 買い物の練習をしよう。(手順・金銭の取扱い・買い物での話し方等) 本時4/9
- 第5時 マックスバリュに行く準備をしよう。
- 第6時 マックスバリュに行こう。
- 第7・8時 見学を振り返り、まとめよう。
- 第9時 まとめたことを交流しよう。

5 本時の指導

(1) 本時の個別目標

児童	児童の実態	本時の個別目標
	・金銭の取扱い ・コミュニケーション	・コミュニケーションとマナー ・買い物
A 6年 女	・金種がすべてわかる。〇百〇十〇円をちょうど出したり, おおよその金額で出したりすることができる。 ・経験したことや思ったことを順序立てて, はっきりと話すことができる。	・お店の方に「お願いします。」「ありがとうございました。」の挨拶や場に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。 ・おおよその買い物の流れがわかり, 一人で買い物ができる。
B 4年 男	・金種がすべてわかる。〇百〇十〇円をちょうど出すことができる。 ・体験したことを簡単な言葉で話すことができる。身近な人とコミュニケーションをとることができる。	・教師の声がけでマナーを守り, お店の方に自分から進んではっきりとした挨拶ができる。 ・先生から提示された金額を見て, おおよその金銭を出して買い物をすることができる。
C 4年 女	・硬貨を種類毎に弁別できるが, 名称が曖昧なことがある。 ・経験したことを話そうという意欲がある。発音が不明瞭なため, 文章を書いてそれをゆっくり読むと, おおまかな内容を伝えることができる。	・買い物の流れを一つ一つ確かめさせるとともに, お店の方にはっきりとした挨拶ができる。 ・支援を受けながら商品を選び, 100円玉を数枚使い言われた金額を支払うことができる。
D 1年 男	・教師と共に硬貨を弁別して並べ, 教師を真似て必要な金額を言ったり出したりする。 ・簡単なジェスチャーや言葉で「トイレ」「いやだ。」などの気持ちを表出できる。支援されながら, 簡単な言葉を繰り返すことができる。	・買い物の流れを一つ一つ確かめさせるとともに, 教師の声がけで買い物をするときのマナーを守らせる。お店の方にはっきりとした挨拶ができる。 ・支援を受けながら正しい商品をかごに入れ, 500円玉を使った支払いができる。

児童	児童の実態 ・金銭の取扱い ・コミュニケーション	本時の個別目標 ・コミュニケーションとマナー ・買い物
E 6年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種がすべてわかる。〇百〇十〇円をちょうど出したり, おおよその金額で出したりすることができる。釣銭が出そうなときはだいたいいくらか考えられる。</li> <li>・大人には, 意識して丁寧な言葉で話そうとする。低学年に対しお世話をしようとするが, 自分の言いたいことを十分表せないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店の方に「お願いします。」「ありがとうございました。」の挨拶や場に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・黒板に書かれたおおよその買い物の流れを自分で確かめながら, 一人で買い物ができる。</li> </ul>
F 5年 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金種がすべてわかる。〇百〇十〇円をちょうど出したり, おおよその金額で出したりすることができる。</li> <li>・授業では話すことに自信をもてず, 声が小さい。大人にはなかなか話せないが, 休み時間に子供たち同士で話すときは, 時折はっきり話すことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店の方に「お願いします。」「ありがとうございました。」の挨拶ができる。</li> <li>・自分で正しい商品をかごに入れてレジまで持って行くことや, 自分で釣銭とレシートを受け取り, 商品を袋詰めすることができる。</li> </ul>
G 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭を種類ごとに分別できる。50円が2枚で100円になることや10円を5円と1円に両替する操作活動に支援を必要とする。</li> <li>・話そうという気持ちはあるものの, 相手を意識せず話すことや, 内容を自分でまとめられず支援を必要とすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物の流れを一つ一つ確かめさせるとともに, 教師の声がけで買い物をするときのマナーを守らせる。お店の方にはっきりとした挨拶ができる。</li> <li>・支援を受けながら商品を選び, 100円玉を数枚使い言われた金額を支払うことができる。</li> </ul>

(2) 研究テーマに関わる手立てについて

【研究内容2】…意欲をもって関わるができる活動と支援の工夫

- ・児童の実態に合わせ, 財布・財布に入れる金額・購入する物を変え, 個々の段階に合った買い物ができるようにさせる。【言語活動1】
- ・買い物の模擬体験をした後に, お互いの活動のよいところを話させる。【言語活動2】

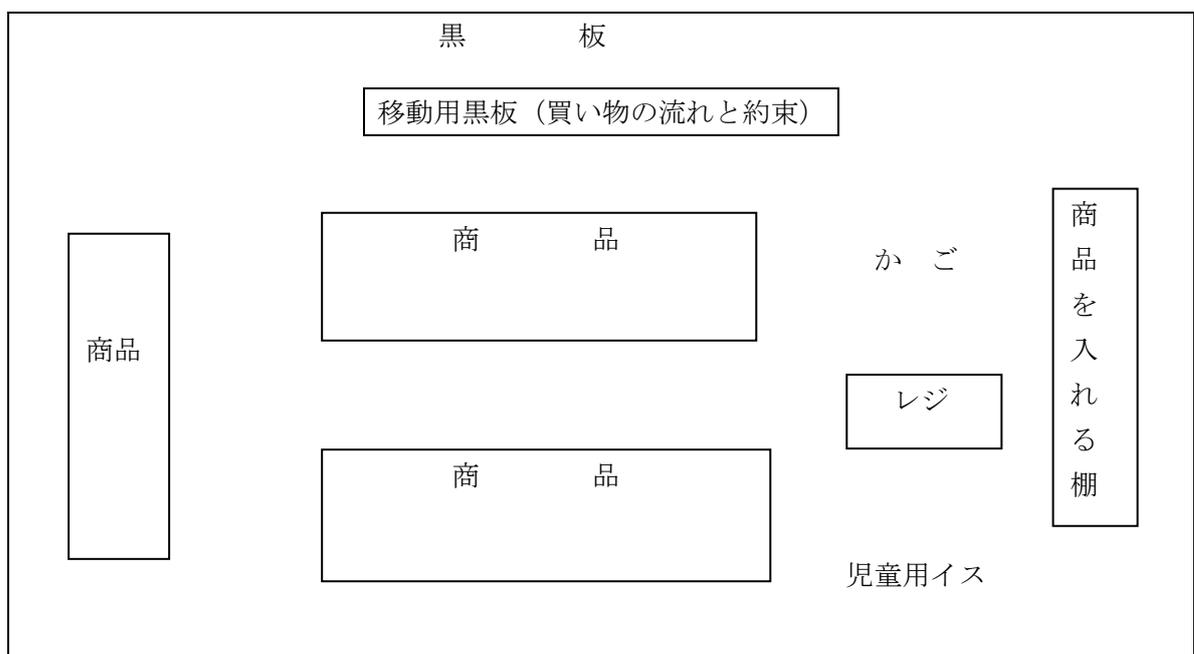
(3) 展 開

段階	学 習 活 動	支援の手立て (○) 評価 (★)
導入 8分	<p>1 前時の想起をする。</p> <p>2 本時の学習内容を確認する。 ・マックスバリュでの買い物に向けた買い物の練習をすることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>買い物をじょうずにできるようにれんしゅうしよう。</p> </div>	<p>○学習計画表を見せながら、買い物の練習をしていることを想起させる。</p> <p>○前時までの買い物練習で出た課題を発表させて、それよりも上手な買い物をすることを確認する。</p>
展開 32分	<p>3 マックスバリュでの買い物の流れや約束を確認する。</p> <p>4 買い物の練習をする。(2組に移動) ・練習をする。 ①自分のめあてを話す。 ②教師から購入する物を聞く。 ③買い物かごをとる。 ④購入する物を選んで買い物かごに入れる。 ⑤レジに並んでお金を出す。 ⑥お釣りとレシートを財布に入れる。 ⑦購入した物を袋に入れる。 ⑧買い物かごを片付ける。</p> <p>・友達の買い物練習を見て、よかったことを話す。</p>	<p>○「買い物の流れ」や「約束」を掲示しておく。</p> <p>○2組の教室に、マックスバリュでの買い物の模擬体験ができるような場を設定しておく。</p> <p>○前時までの買い物練習の様子から、個人のめあてはあらかじめ決めておく。</p> <p>○低学年には、高学年の様子に注目できるように声がけし、買い物の仕方を理解させていく。</p> <p>○支援員は、マックスバリュの店員の役を行う。</p> <p>○児童の実態に合わせ、財布や財布に入れる金額・購入する物を変え、個々の段階に合った買い物ができるようにさせる。【言語活動1】</p> <p>○AとEには、買い物メモとお金が入った財布・電卓を渡す。「買い物の流れ」や「約束」をもとにして、買い物ができるようにする。</p> <p>○Fには、レジでコミュニケーションを図れるように話型を示しておく。</p> <p>○Bには、おおよその金額を自分で考えて出せるように、代金を紙に書いて支援する。</p> <p>○CとGは、高学年とペアになり買い物の練習をする。レジでは、100円玉を数枚使った支払いができるように声がける。また、扱いやすい財布を準備する。</p> <p>○Dは、高学年とペアになり買い物の練習をする。買い物の約束を直前に再確認して、約束を守って商品をかごに入れさせる。500円玉を使った支払いができるように、扱いやすい財布を準備する。</p> <p>★自分のめあてが守れるように買い物練習ができたか。</p> <p>○買い物の模擬体験をした後に、友達の活動のよかったところを発表できるように観点を示しておく。【言語活動2】</p>

終末	5 本時の学習の振り返りをする。	○本時のでき具合を確認し、めあてを達成できたか自己評価をさせる。また、友達の頑張りを認め合えるように支援する。 ○本時で学んだことが次時やこれからの生活に生きることを伝える。
5分	6 次時の学習を確かめる。 ・マックスバリュに買い物に行く準備をすることを伝える。	○本時の学習をうけて、次時の学習内容を告げ、意欲を高める。

(4) 場の設定

買い物の場所 (ひまわり 2組)



※導入と終末はひまわり 1組で行う。